

まだまだ先の長い人生、選択肢を増やしていくには・・・

いろんな可能性を増やすための条件とは、なんだろうか？

生活のパターンを変えて見る。いつもと違う場所へ行く・・・

「不即不離」、「不離付則」という言葉があります。「つかずはなれず」ということですが、人間関係などで、ほどよい距離感も必要ということを言い表す言葉のようです。

この言葉は、自分自身の中にも当てはまるような気がしています。自分の心の有り様と生活環境の関係です。

ナンバあたりで、もう5〜6年、野宿生活が続いている人が、体調が思わしくないので医療センターで診て貰った所、「あんた、少しおかしくなっている」といわれたそうです。「人のこと、馬鹿にして」と怒ったそうですが、よくよく話を聞いてみると、「長期の野宿生活のストレスのせいで、少し精神的に変調を来している」といつているのだと分かったそうです。

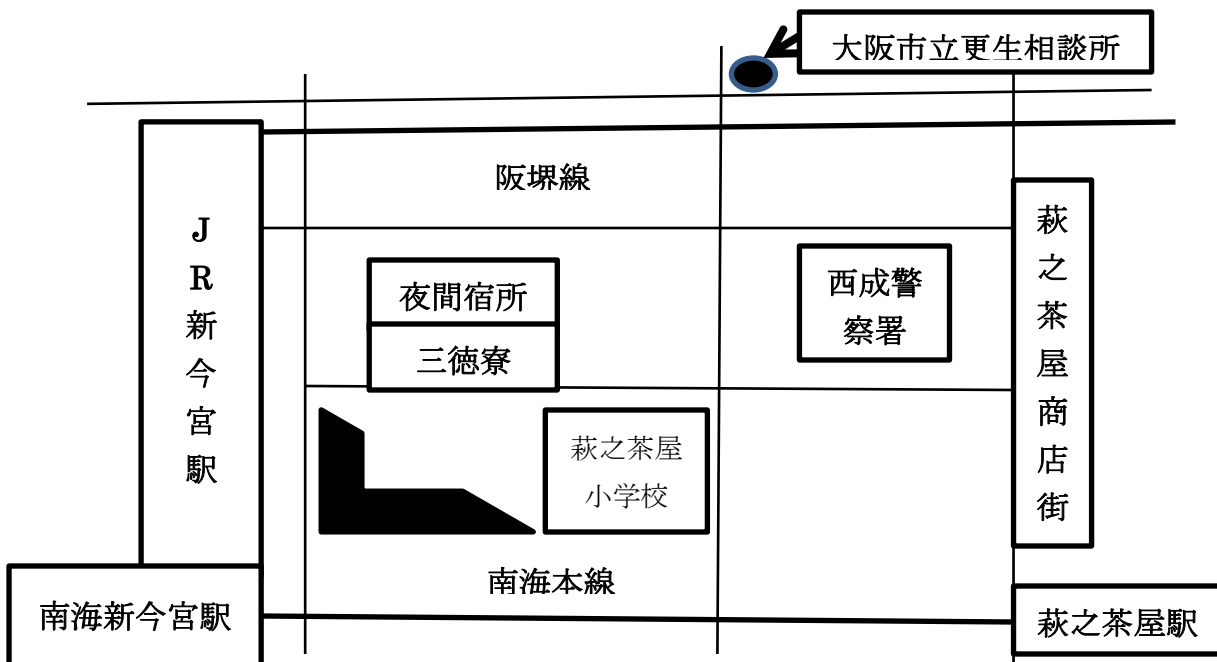
「なるほど、ストレスのせいか」と、納得できたので、「では、どうすればいいか」を考えているところだそうです。

人は、自分を取り巻く生活環境は、容易に変えられないものだと思います。本当は、これまでの人生の中で、生活環境が変わってきているのですが、「自分の意識＝自己」は一繋がりのもので意識されるので、生活環境の変化を、大きな要素としては意識できないでいます。ましてや、自分の精神に生活環境が影響を与えているとは、中々思えません。

今の生活環境は、自分(精神や肉体)それを統一した存在としての

吾)とどの様な関係にあるのか、どの様な影響を受けているのかを、時には、別の環境に身を置いて、考えて見る必要があるのではないのでしょうか。

そのために、ケアセンターや施設、居宅保護の選択肢があります。



市更相は釜ヶ崎（あいりん地域）の福祉相談窓口です。

夜間宿所利用・炊き出し利用、センター周辺や公園での野宿・仮小屋生活から、アパート生活へ！

市立更生相談所（市更相）は、釜ヶ崎（あいりん地域）内の簡宿利用者、夜間宿所利用者、そして、地区内で野宿する人を担当する福祉の相談窓口です。

役所は管轄（縄張り）にこだわりますから、市更相の窓口で「天王寺公園で寝ていた」というと、「天王寺区役所で相談して下さい」といわれます。「鶴見橋商店街で寝ていた」というと、「西成区役所へ行って下さい」といわれます。この点、相談に行く前に、しっかり確認しておいて下さい。

最低でも、相談に行く前の晩は、夜間宿所かセンター周辺あるいは山王・太子など市更相周辺で寝泊まりしていたことが必要です。地区内の簡宿に止まっている人が、わざわざ野宿していく必要はありません。

大阪市立更生相談所にできること

1) 医療相談

体の調子の悪い人は、医者を紹介してもらえます。大概是医療センターですが、眼科や歯科など病気によっては、他の病院を紹介してくれます。勿論、無料で医者にかかれます。医療センターの受診の後、医療センターの相談室で相談して、紹介状を書いてもらうこととなります。医療継続のために、必要です。市更相に持っていきましょう。入院の場合は、生活保護の医療保護（入院保護）とすることとなります。

2) 施設相談

2～3日、三食風呂付きで体の調子を整えたい人は、三徳寮の生活ケアセンターの利用を相談してみてください。最近の利用者が少ないので、断られることは少ないようです。医療センターの受診の後、医療センターの相談室で相談して、紹介状を書いてもらうこととなります。市更相に持っていきましょう。市更相からの、生活ケアセンターへの紹介状を持って、三徳寮の受付に行きます。これは、生活保護法外の援助、つまり、法外援助といえます。

2～3日でなく、長期に施設に入って、体力の回復や過度の飲酒やギャンブル依存などの悪い生活習慣を改善した人は、長期の寮（生活保護施設）への入所を相談しましょう。生活保護の中の施設保護です。

3) 居宅確保相談

住居のない人が、アパートやマンションを借りて、生活保護の中の居宅保護を申請することができます。この場合は、医療相談でも施設の相談でもなく、居宅保護の相談であることをはっきり、職員に伝える必要があります。大阪市には「生活移行支援事業」というのがあります。住居のない人については、住居を探す間や生活費を支給するための手続きをする間、寝泊まりする場所がないと住居探しなどに専念できないだろうということで、2週間程度施設で過ごすことになっています。施設の職員が、住居探しの手伝いをしてくれるほかに、手続き上のわからないことについて、助言してくれます。

注記：敷金のいらない賃貸住宅（マンション・アパート）に入る人は、入居したその日に、契約書を持って、担当の区役所へ行くこととなります。